

第Ⅱ章 手軽にできるアクティビティ

人権教育ワークショップのアクティビティには、短時間ででき、しかも事前の準備が簡単なものがあります。この章では、手軽にできるアクティビティを集めました。

1 アイスペレーキング編

アイスペレーキングは、研修の雰囲気や和ませたり、人間関係を円滑にしたりするのに有効です。ここでは、人権に視点をあてたアイスペレーキングを紹介します。また、内容の場面に合った言葉かけの例を同じ数字で示しました。

安心フルーツバスケット

場の雰囲気づくり

グループづくり

ねらい：全ての人々の居場所が確保されている心地良さを実感できます。

時間：10分程度

対象：子ども～

人数：10人～

内容：①用意された椅子に全員が座ります。椅子に不足を作りません。
②質問を進行役が行い、該当した人は席を移動します。
③質問に関連したインタビューに何人かが答え活動をふりかえります。

言葉かけ

- ③「自分が動いたときに、多くの人とも動くと、どのような気持ちになりましたか。」
- ③「動いた人が少なかった場合は、どのような気持ちになりましたか。」
- ③「座席が足りないフルーツバスケットと比較してどのように感じましたか。」

※徐々に質問の内容を人権に関するものにしていくと効果的です。

バースデーライン

場の雰囲気づくり

グループづくり

ねらい：声に頼らないコミュニケーションを体験するとともに、他者への配慮を経験することもできます。

時間：5分程度

対象：子ども～

人数：10人～

内容：①声を出さずにジェスチャーなどでコミュニケーションをとりながら、誕生日の月日順に並びます。
②並び終わったら、順に誕生日を発表し、活動をふりかえります。
③並んだ順番にグループづくりもできます。

言葉かけ

- ①「自分の場所だけでなく、周囲の人にも配慮しながら並んでください。」
- ②「声を出さずに並ぶのは、どんな感じがしましたか。」
- ②「自分の場所が確認できたとき、どのような感じがしましたか。」

※「大切な日」や「会場までの所要時間」などでも応用可能です。

トランプ

場の雰囲気づくり

グループづくり

ねらい：ジャンケンをとおして、無意識の中に勝とうとする考えがあることに気付くとともに、勝負にこだわらない、人間関係の良さにも気付きます。

時間：10分程度

対象：子ども～

人数：8人～

内容：①2人組でジャンケンをします。次々に違う人とジャンケンを繰り返し行い、先に5人に勝った人から順番に一列に並ぶようにします。
②次は、あいこになれば勝ちのジャンケンで①と同様にします。先に5人とあいこになった人から順番に一列に並ぶようにし活動をふりかえります。
③並んだ順番で、グループづくりもできます。

言葉かけ

- ②「勝ち負けを決めるジャンケンと、あいこのジャンケンではやってみて気持ちに違いはありましたか。それは、どのような気持ちの違いでしたか。」
- ②「普段の人間関係でいかせることはありますか。また、それはどのようなことですか。」

どっちが好み？

自己紹介

ねらい：お互いの好みや考え方を伝え合うことで、違いを認め合うことの良さに気付きます。

時間：5分程度

対象：子ども～

人数：4人～

ワークシートの例

いいと思う方に○をつけてください。簡単に理由も考えてください。

山	海
和食	洋食
都会	田舎
電話	メール
弁当	給食
大人	子ども

内容：①「山」と「海」、「和食」と「洋食」といった、対称的な言葉の組み合わせがいくつか書かれた項目から、それぞれ自分の好みの方を選びます。
②近くの人とペアになり、ワークシートを交換します。
③なぜそれを選んだのかをお互いに紹介し、活動をふりかえります。

言葉かけ

- ①「どちらを選んでも間違いということはありません。違いも大切にしてください。」
- ③「同じ方を選んでも、選んだ理由が違った場合はなかったでしょうか。」
- ③「お二人で話をして、好みの違いで感じたことがあったらお話しください。」

リングダウン

場の雰囲気づくり

仲間づくり

ねらい：子どもも大人も、一人の人間として尊重することの大切さや、協力することの大切さを学びます。

時間：10分程度

対象：子ども～

人数：4人～

内容：①2人組で向かい合い、両手の人差し指を出してフラフープを乗せ、そのままゆっくり下げます。
②4人以上のグループをつくり、①と同じことを行います。
③2人で行ったときと、人数が多くなって行ったときの違いについて考えます。

言葉かけ

- ③「2人で行ったときと、人数が多くなって行ったときとではどちらが簡単に下ろせましたか。」
- ③「2人で下ろしたときと、人数が多くなって下ろしたときとでは、言葉のかけ方に何か違いはありましたか。」
- ③「人数が増えると下がりにくくなった理由は何ですか。」
- ③「普段の生活で同じようなことはありませんか。また、それはどんな場面ですか。」

じんけん折り紙

自己紹介

ねらい：違いに気づき、違いを認め合うことの大切さに気づきます。

時間：5分程度

対象：子ども～

人数：5人～（1グループ5～6人程度）

内容：①各グループに折り紙のセットを配布します。
②「今の気持ち」に最も近い色の折り紙を選び、その裏側に「今の気持ち」を簡単に記入します。
③グループの中で、順番に、選んだ色を見せながら、「今の気持ち」を発表し合います。
④自分の選んだ色や気持ちを発表し合ったときの気持ちを、全体で共有します。

言葉かけ

- ②「今皆さんはどのような気持ちでしょうか？今の気持ちに最も近い色を選んでください。」
- ②「どんな色を選んでも、安心できる場です。誰も、他の人の選んだ色を尊重することを約束してください。」
- ③「嬉しい気持ちなどプラスの気持ちのときは、“素敵ですね”と言いながら、悲しい気持ちなどマイナスの気持ちのときは、“わかります”と言いながら、拍手でその気持ちと色を認め合ってください。」
- ④「自分の気持ちを認めてもらったときは、どのような気持ちでしたか。」

テトラ他己紹介 (テトラとは、4を意味します)

ねらい：傾聴の姿勢で話を聴くことの重要性に気付くとともに、他者理解の手法を体験します。

時間：5分程度

対象：子ども～

人数：4人～

内容：①2人組になり、互いに1分間ずつ自己紹介をします。
②別の2人組と一緒にになり、4人組をつくります。
③自己紹介された相手のことを、新たに組んだ2人に紹介します。
④順番に全員が紹介をしていきます。
⑤自分のことを紹介してもらっているときの気持ちを共有します。

言葉かけ

- ①「最初は1分間の自己紹介をしていただきますが、遠慮せずに自分の良いところや自慢できることなどをたくさん話してください。」
- ③「自己紹介で知った相手のことを、自分のことのように自慢しながら嬉しそうに紹介してください。」
- ⑤「自分のことを紹介してもらい、認めてもらっているときはどんな気持ちでしたか。」
「普段の生活の中でいかしたいと思ったことはありますか。それはどんなことですか。」

同じ仲間集まれ

ねらい：パズルを組み合わせるゲームをとおして、参加者同士が言葉をかけ合うなど、思いやりの大切さに気付きます。

時間：5分程度

対象：子ども～

人数：15人～

内容：①あらかじめA4～A3くらいの絵や写真を、グループの人数分に切り分けておきます。これをグループ数分用意し、混ぜておきます。
②学習者は1枚取り、自分と同じ絵や写真の一部（パズルのピース）を持っている人を探します。
③同じ種類の絵や写真を持っている人同士でグループをつくります。
④簡単に数人にインタビューします。

言葉かけ

- ②「自分の絵を合わせるだけでなく、周囲の人にも気配りをしてください。」
- ③学習者が声をかけ合ってグループづくりをしたとき
「皆さんはグループができましたね。これは人権に配慮した温かな雰囲気でしたね。」
- ④「どのようにして仲間を見つけましたか。」
- ④「同じパズルの方を見つけたとき、どんな気持ちでしたか。」

2 ショートアクティビティ編

人権を絵で表そう！

時間：20分

対象：子ども～

人数：8人～40人

ねらい 世界人権宣言を絵で表すことにより、世界人権宣言についての理解を深めます。また、絵を推測することをとおして、個性や多様性について考えます。

展開

- 1 4～5人のグループをつくり、グループの名前を決めてA4の用紙に記入します。
- 2 各グループの代表1名が、指示された「世界人権宣言」のある条項について絵に描き、グループのメンバーに見せます。
※絵にはイメージを描くだけで、数字や言葉は書いてはいけません。
- 3 グループのメンバーは、その人の描いた絵がどの条項をあらわしているのかを推測し答えます。
※答えるのは、一人1回と決めておきます。
※自分の推測した答えのみ声に出すことはできますが、質問などは一切できません。
- 4 正解したら、絵を描いた人が「正解です！」と言います。
※何条の権利を描いたのか、その絵に書き入れてもらいます。
※全員で、今書いた人権宣言の条項をじっくりと読みます。
- 5 次の人が代表となり、次に指示された条項の絵を描きます。(展開の3、4と同じ活動をします。)
- 6 グループの全員が絵を描くまで繰り返します。
- 7 全てのグループが終了したら、描き出した絵を自分のチームのテーブルに掲示します。
- 8 他グループが描いた絵を見て、気付いたことや感想をグループで話し合います。
- 9 活動について、ふりかえりをします。

準備物：世界人権宣言の条項、A4用紙、マジック

アドバイス

各グループは、他のチームの発言が聞こえないように離れた場所に配置しましょう。

小学生が対象の場合は、詩人である谷川俊太郎さんが、世界人権宣言をわかりやすい言葉にしてくれたものを使用するとよいでしょう。(P13参照)

4人のグループは1人だけ2回答えることができるようにするとよいでしょう。

どの条項かを当てることだけが目的でなく、人権宣言の権利に関する知識を深めることが目的であることを伝えましょう。

描かれた絵を比較することにより、解釈やイメージの仕方の違いや人権の意味について議論するように助言しましょう。

ふりかえりの言葉

- 人権宣言の条項で、特に大切だと感じた条項はどれですか。その理由は何ですか。
- これらの人権は自分自身の生活にどのような関係があると思いますか。

引用文献：『あたりまえに いきるための 世界人権宣言』

アムネスティ・インターナショナル日本支部 谷川俊太郎著 金の星社 H2.5

第1条 みんな仲間だ

わたしたちはみな、生まれながらにして自由です。ひとりひとりがかけがえのない人間であり、その値打ちも同じです。だからたがいによく考え、助けあわねばなりません。

第10条 裁判は公正に

わたしたちには、独立した、かたよらない裁判所で、大勢のまえで、うそのない裁判を受ける権利があります。

第16条 ふたりで決める

おとなになったら、だれとでも好きな人と結婚し、家庭がもてます。結婚も、家庭生活も、離婚もだれにも口出しされずに、当人同士が決めることです。家族は社会と国によって、守られます。

第18条 考えるのは自由

人には、自分で自由に考える権利があります。この権利には、考えを変える自由や、ひとりで、またほかの人といっしょに考えをひろめる自由もふくまれます。

第21条 選ぶのはわたし

わたしたちはみな、直接にまたは、代表を選んで自分の国の政治に参加できます。また、だれでもその国の公務員になる権利があります。みんなの考えがはっきり反映されるように、選挙は定期的に、ただしく平等に行なわれなければなりません。その投票の秘密は守られます。

第26条 勉強したい？

だれにでも、教育を受ける権利があります。小、中学校はただで、だれもが行けます。大きくなったら、高校や専門学校、大学で好きなことを勉強できます。教育は人がその能力をのばすこと、そして人としての権利と自由を大切にすることを目的とします。人はまた教育を通じて、世界中の人とともに平和に生きることを学ばなければなりません。

※谷川俊太郎氏の「世界人権宣言」の全ての条項はホームページに掲載しています。



栃木 人権資料

検索

名刺を交換しましょう

時間：20分

対象：成人

人数：6人程度～

ねらい 職業や肩書によるイメージから、「決めつけ（ステレオタイプ）」へと発展し、「偏見」につながっていることを学びます。

展開

- 裏返しにした名刺を受け取ります。
- 名刺に書かれた職業や役職に対して、架空の自己紹介を考えます。
(「名刺がありません」と書かれたカードを持った方には、名刺を持たないと思われる職業や役職を想像してくれるようにアドバイスします。)
- 会場の人とペアになり、握手をした後、名刺交換をしながら架空の自己紹介をします。
- 「名刺交換記入シート」に、『私の気持ち』『体と心の変化』そして、『相手の感覚』を推測して記入します。(「前へ」とは相手よりも格上といった感覚です。)
- 別な人とペアになり、名刺交換でもらった名刺の職業や役職に対して、2回目の自己紹介をします。
- 続けて5回行います。
- 名刺交換記入シートに、『気付いたこと・感じたこと』を記入します。
- 6人程度のグループになり、名刺交換記入シートに書いた内容等について、ふりかえりをします。

準備物：名刺カード（名刺の例を参照）
名刺交換記入シート

資料

弁護士	配送会社 運転手	市会議員	警察官
タクシー 運転手	国会議員	韓国料理 店長	清掃会社 作業員
コンビニ バイト店員	J A職員	音楽教室 ピアノ講師	名刺があり ません
人権団体 役員	食肉市場 作業員	小学校 校長	県庁職員 部長

アドバイス

配られた名刺の内容では活動がしにくい人がいるか確認し、その場合はカードを変えましょう。

名刺交換をしながら、相手の気持ちを察することが重要なポイントであることを伝えましょう。

ふりかえりの言葉

- 名刺の職業が変わるごとに、体と心はどのように変化しましたか。
- これまでの職業に対しての概念について、変えようと思ったことはありますか。それは具体的にどのようなことですか。

名刺交換記入シート

名刺の 種類	わたしの気持ち	1
第一 回目	自分の名刺を渡すときの体と心の変化、(いづれかを○で囲んでください)	前へ 変化なし 後へ
	相手の名刺を渡されたときの相手の感覚、(いづれかを○で囲んでください)	前へ 変化なし 後へ
	前へ 変化なし 後へ	
第二 回目	わたしの気持ち	2
第二 回目	自分の名刺を渡すときの体と心の変化、(いづれかを○で囲んでください)	前へ 変化なし 後へ
	相手の名刺を渡されたときの相手の感覚、(いづれかを○で囲んでください)	前へ 変化なし 後へ
	前へ 変化なし 後へ	
第五 回目	わたしの気持ち	5
第五 回目	自分の名刺を渡すときの体と心の変化、(いづれかを○で囲んでください)	前へ 変化なし 後へ
	相手の名刺を渡されたときの相手の感覚、(いづれかを○で囲んでください)	前へ 変化なし 後へ
	前へ 変化なし 後へ	
気付いたこと・感じたこと		



※ワークシートはホームページに掲載しています。

引用文献：『勇気がでてくる人権学習3問題解決型人権ワークショップへの道程』
白井俊一著 解放出版社 H14.7

栃木 人権資料

検索

呼び方を変えると・・・

時間：20分 対象：成人 人数：10人～40人

ねらい 呼び方を変えてみることで、職業に対する性別や年齢等の固定概念について考えを深めます。

展開

- 1 ワークシートの空欄に職業名を書き入れます。
- 2 書き出した職業に、おじさん、おばさん、おにいさん、おねえさんの呼び方を付け、しっくりするものに○、しっくりこないものに×を付けます。
- 3 グループで発表し合い、お互いの意見を聞きます。
- 4 ふりかえりをします。

準備物：ワークシート

アドバイス

ふりかえりの言葉

- 全部×だった職業はありましたか。それはどんな職業でしたか。
- ○×を付けた基準はどこにありましたか。
- 活動をとおして、普段の生活にいかしたいことはありましたか。それはどんなことですか。

資料

呼び方を変えると・・・

下の表の職業に続く言葉を選んでみましょう。しっくりする言葉には○、しっくりしない言葉には×を入れてみましょう。また、職業の入っていない欄に、思いつく職業を入れ、言葉を選んでみましょう。

職業等	呼び方	
トラック運転手の	おじさん ()	おばさん ()
	おにいさん ()	おねえさん ()
給食の	おじさん ()	おばさん ()
	おにいさん ()	おねえさん ()
道路工事の	おじさん ()	おばさん ()
	おにいさん ()	おねえさん ()
看護師の	おじさん ()	おばさん ()
	おにいさん ()	おねえさん ()
掃除の	おじさん ()	おばさん ()
	おにいさん ()	おねえさん ()
コンビニのバイトの	おじさん ()	おばさん ()
	おにいさん ()	おねえさん ()
コンビニ店長の	おじさん ()	おばさん ()
	おにいさん ()	おねえさん ()
受付の	おじさん ()	おばさん ()
	おにいさん ()	おねえさん ()
自治会長の	おじさん ()	おばさん ()
	おにいさん ()	おねえさん ()
建設会社社長の	おじさん ()	おばさん ()
	おにいさん ()	おねえさん ()
の	おじさん ()	おばさん ()
	おにいさん ()	おねえさん ()
の	おじさん ()	おばさん ()
	おにいさん ()	おねえさん ()
の	おじさん ()	おばさん ()
	おにいさん ()	おねえさん ()

【ふりかえり】

全部×だった職業はありましたか。それはどんな職業でしたか。	○×を付けた基準はどこにありましたか。	活動をとおして普段の生活にいかしたいことはありましたか。それはどんなことですか。

※ワークシートはホームページに掲載しています。



栃木 人権資料

検索

ピクチャーマッチング

時間：5～10分 対象：成人 人数：4人～

ねらい 途中で切られたイラストの組合せを考えることで、自分の中にある偏見や差別の感情に気付くとともに、様々な人権問題についても理解を深めます。

展開

- 1 4～5人のグループをつくります。グループ全員に配られた、上下が切られた9枚のイラストを見ます。
- 2 9枚のイラストを見比べながら、上下の組合せを考え、3つの絵を完成させます。
- 3 完成した絵をグループ内で発表しながら、なぜ、組合せが人によって違うのかを話し合い、ふりかえりをします。

準備物：イラスト

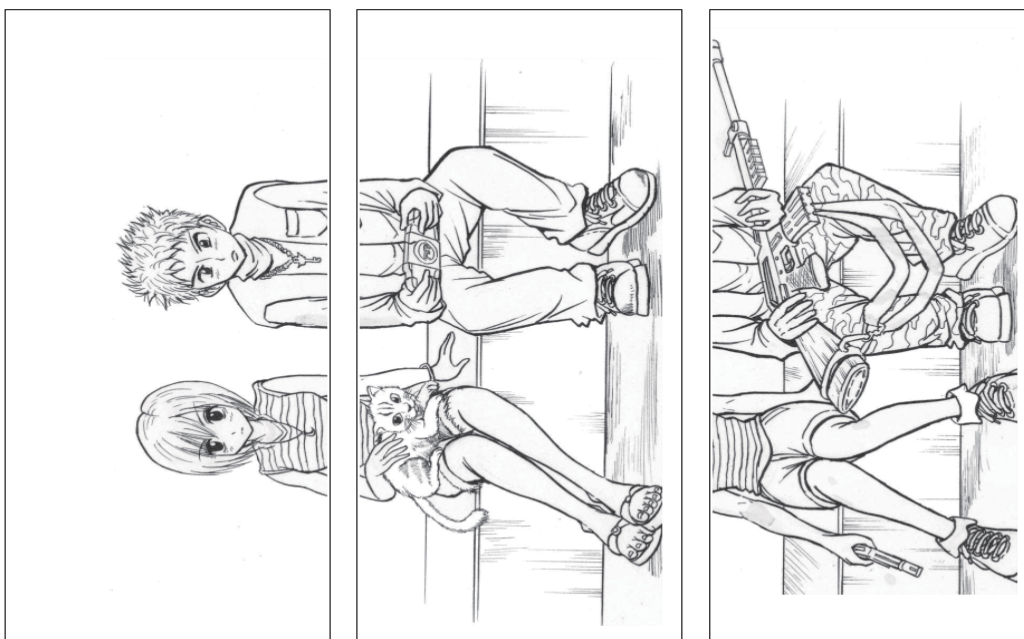
アドバイス

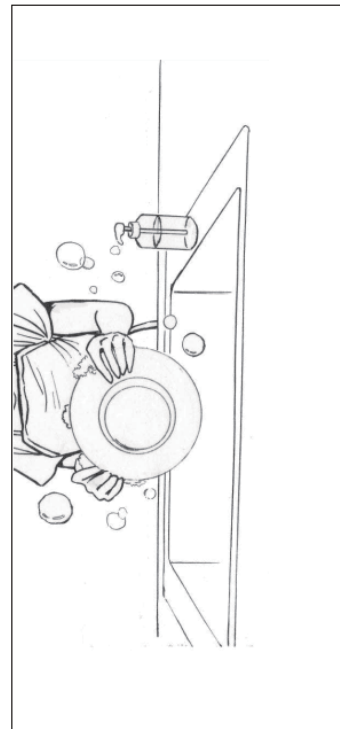
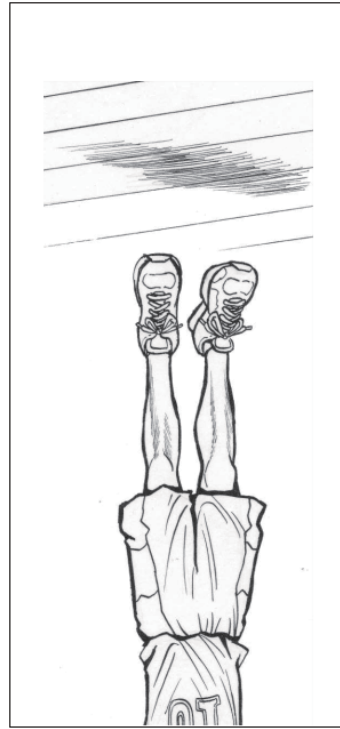
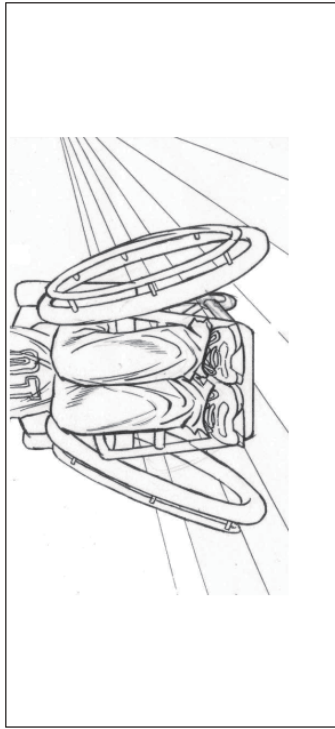
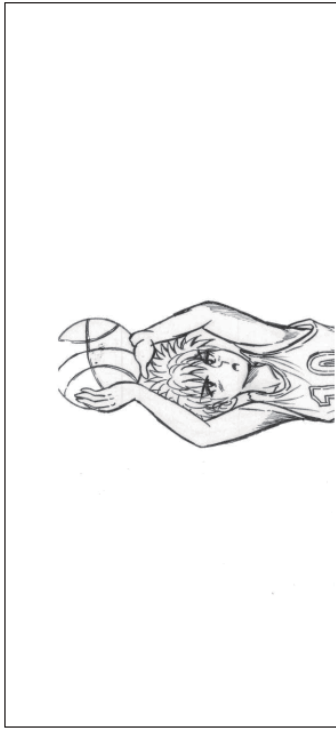
事前にP16～P17のイラストを人数分用意しておきましょう。

ふりかえりの言葉

- 3枚の絵を完成させながら、どんなことを感じましたか。
- 皆さんとの話合いの中で気付いたことは、どのようなことですか。
- この活動をとおして、普段の生活にいかしたいことはありましたか。それは、どのようなことでしたか。

資料





※A4サイズのイラストはホームページに掲載しています。



栃木 人権資料

検索

人にやさしいデザインについて考えよう！

時間：20分

対象：子ども～

人数：8人～40人

ねらい ユニバーサルデザインの理解をとおして、全ての人が個人として尊重される社会づくりの大切さについて考えます。

展開

- 1 誰に対しても優しく工夫されている身近なものや設備などを、付箋紙にできるだけたくさん書き出します。
- 2 書き出した付箋紙をグループで確認し、模造紙に貼ります。
- 3 各グループでまとめた模造紙を掲示して、お互いのグループのものを見比べます。
- 4 参考資料を基に、ユニバーサルデザインについて理解を深めます。
- 5 他のグループの模造紙や参考資料を基に、気付いたことや感想をグループで話し合います。
- 6 活動について、ふりかえりをします。

準備物：付箋紙、模造紙、資料

アドバイス

時間があれば、フィールドワークを実施するのもよいでしょう。

模造紙に貼るだけでなく、どのような工夫がされているのかも確認させましょう。

他のグループの間違い探しをするのではなく、新たな発見や身近な所にユニバーサルデザインがたくさんあることについて話し合うよう助言しましょう。

ふりかえりの言葉

・今日の学びをこれからの生活でいかせることはありましたか。それはどんなことですか。

解説

○ユニバーサルデザインとは？

「全ての人のためのデザイン」を意味します。年齢、性別、身体的状況、国籍、言語、知識、経験などの違いに関係なく、最初から全ての人が使いやすい製品や環境などをデザインすることをいいます。

○ユニバーサルデザインの7つの原則

- 1 誰でも使えて手に入れることができる（公平性）
- 2 柔軟に使用できる（自由度）
- 3 使い方が簡単にわかる（単純性）
- 4 使う人に必要な情報が簡単に伝わる（わかりやすさ）
- 5 使い方を間違えても重大な結果にならない（安全性）
- 6 少ない力で効率的に、楽に使える（省体力）
- 7 使うときに適当な広さがある（スペースの確保）

資料

*下の写真は、全ての人がいやすいように工夫されたものです。

①公園の水飲み場



車椅子を使用する人が飲みやすい高さで、手すりもついています。子どもも使えるように踏み台が付いています。

②自動改札機



自動改札機のいくつかある通路のうち一部の通路は幅が広がっています。ベビーカーや車椅子を利用する人、大きな荷物を持った人にも便利です。

③電灯のスイッチ



操作部分が大きいので、押しやすく、操作も簡単です。小さな子どもや指先に力が入らない人、両手が使えないときなどにもとても便利なスイッチです。

④思いやり駐車スペース



多くの人を利用する店舗や病院などの施設には、身体に障害のある方のための駐車スペースが設けられています。障害のある方だけでなく、高齢者や妊産婦の方も利用できるようになっています。

⑤シャンプーとリンス



シャンプー容器にギザギザが付いていますが、これはリンスと区別するためのものです。同じ容器でシャンプーとリンスが並べて置かれたとき、どちらがシャンプーなのかわからなくなることがあります。また、髪を洗っているときは、誰しも目をつぶります。そんなときに、このギザギザを触れば、確認できます。

⑥缶ビール



形が同じでも点字でわかる缶ビール。飲み口に点字が打たれています。視覚に障害のある方が他の飲み物と区別する手がかりにすることができます。また、子どもが間違えて飲むことの防止策にもなるものです。

⑦トランプ



通常のトランプのインデックス（記号と数字の部分）は左上と右下についていますが、このトランプは左利きの人にも使いやすいように4隅にインデックスが入っています。

⑧硬貨投入口



切符売り場の硬貨投入口です。硬貨が投入しやすく工夫されています。

⑨駅のホームへの登り口



エレベーター、エスカレーター、階段を平等、公平に設置することで、利用する人の状況に応じて、使うことができます。

ジェスチャーゲーム

時間：25分 対象：子ども～ 人数：10人～50人

ねらい 多数派であること、少数派であることを体験するなかで、多数派であるときは気付きにくい少数派の気持ちを理解するとともに、公正な社会について考えます。

展開

- 1 5人程度のグループに分かれます。
- 2 ファシリテーターから一人ずつ指令カードを受け取ります。指令カードは周りの人に見せないようにします。
- 3 ゲームの流れの説明を聞きます。
＝ゲームの流れ＝
 - ・ 指令カードに書いてある「とんとんとん」から「ばいばいばい」までの動作を順番に行います。
 - ・ 声を出しながら、できるだけ大きな動作で行います。
 - ・ 途中、話をしないで行います。
- 4 1つめの動作を練習した後、ファシリテーターのかけ声に合わせて一斉に動作をします。
- 5 活動のふりかえりをします。

準備物：指令カード

アドバイス

グループで心を一つにして楽しく活動するように伝えましょう。

ゲームの流れを伝えるとともに、活動の途中で続けることが難しいと感じた人は無理に行わなくてもよいことを伝えましょう。

1つ1つの動作の間は、少し時間をおくようにしましょう。

ふりかえりの言葉

- ・ ゲームをとおしてどんなことを感じましたか。
- ・ ゲーム中に戸惑いはありましたか。
- ・ 日常生活の中で同じような場面はありますか。それは、どのような場面ですか。

指令カード

ワークシート

【カード】5人分

*背景が黄色の部分は少数派の行動

<p>とんとんとん</p> <p>左右の肩を左から3回ずつたたく。</p>	<p>ぐるぐるぐる</p> <p>首をぐるっと回す。</p>	<p>ばちばちばち</p> <p>かけ声に合わせて人差し指で拍手をする。</p>	<p>べこべこべこ</p> <p>うんうんと大きくうなづく。</p>	<p>ぎゅつぎゅつぎゅつ</p> <p>手を前に出し、チョキ、グー、チョキ、グーをする。</p>	<p>ぐーぐーぐー</p> <p>手を前に出し、グー、パー、グー、パーをする。</p>	<p>ばいばいばい</p> <p>右手で手を振りさようならをする。</p>
<p>とんとんとん</p> <p>左右の肩を左から3回ずつたたく。</p>	<p>ぐるぐるぐる</p> <p>首を左右に曲げる。</p>	<p>ばちばちばち</p> <p>かけ声に合わせて拍手をする。</p>	<p>べこべこべこ</p> <p>左右に大きく首を振る。</p>	<p>ぎゅつぎゅつぎゅつ</p> <p>手を前に出し、グー、パー、グー、パーをする。</p>	<p>ぐーぐーぐー</p> <p>手を前に出し、チョキ、グー、チョキ、グーをする。</p>	<p>ばいばいばい</p> <p>両手を大きく挙げて手を振りさようならをする。</p>
<p>とんとんとん</p> <p>左右の肩を左から3回ずつたたく。</p>	<p>ぐるぐるぐる</p> <p>首を左右に曲げる。</p>	<p>ばちばちばち</p> <p>かけ声に合わせて拍手をする。</p>	<p>べこべこべこ</p> <p>左右に大きく首を振る。</p>	<p>ぎゅつぎゅつぎゅつ</p> <p>手を前に出し、チョキ、グー、チョキ、グーをする。</p>	<p>ぐーぐーぐー</p> <p>手を前に出し、グー、パー、グー、パーをする。</p>	<p>ばいばいばい</p> <p>右手で手を振りさようならをする。</p>
<p>とんとんとん</p> <p>左右の肩を左から3回ずつたたく。</p>	<p>ぐるぐるぐる</p> <p>首を左右に曲げる。</p>	<p>ばちばちばち</p> <p>かけ声に合わせて拍手をする。</p>	<p>べこべこべこ</p> <p>左右に大きく首を振る。</p>	<p>ぎゅつぎゅつぎゅつ</p> <p>手を前に出し、チョキ、グー、チョキ、グーをする。</p>	<p>ぐーぐーぐー</p> <p>手を前に出し、グー、パー、グー、パーをする。</p>	<p>ばいばいばい</p> <p>右手で手を振りさようならをする。</p>
<p>とんとんとん</p> <p>左右の肩を左から3回ずつたたく。</p>	<p>ぐるぐるぐる</p> <p>首を左右に曲げる。</p>	<p>ばちばちばち</p> <p>かけ声に合わせて拍手をする。</p>	<p>べこべこべこ</p> <p>左右に大きく首を振る。</p>	<p>ぎゅつぎゅつぎゅつ</p> <p>手を前に出し、チョキ、グー、チョキ、グーをする。</p>	<p>ぐーぐーぐー</p> <p>手を前に出し、グー、パー、グー、パーをする。</p>	<p>ばいばいばい</p> <p>右手で手を振りさようならをする。</p>

- グループの人数が増えるときは、上から3段目～5段目までの多数派の行動をコピーしてください。
- _____ で切り取り短冊を作ります。印刷の際は単色で、少数派の行動が分からないようにして渡します。文字が小さいので B4サイズに拡大して印刷するとよいでしょう。
- 1つの動作について、4～5回繰り返しましょう。
- 単色用ワークシートはHPに掲載してあります。

栃木 人権資料

検索



アリさんここですよ

時間：15分 対象：子ども～ 人数：3人～

ねらい 視覚に頼らないコミュニケーションの難しさを感じるとともに、もの
のとらえ方にも違いがあることに気付きます。

展開

- 1 2～3人組をつくり、近くのグループの声が聞こえない程度に間隔をとり、お互いが背中合わせになるように座ります。
- 2 お互いに、言葉をかけ合いながら紙にアリを1匹描きます。ただし、紙の同じところに、同じ形で、同じ大きさのアリを描きます。
- 3 それぞれに描いたイラストを見比べて、視覚に頼らないコミュニケーションについて、考えます。
- 4 ぶりかえりをします。

準備物：紙

アドバイス

3人の場合は、背中が三角形になるように座り、お互いの手元が見えないようにしましょう。

ぶりかえりの言葉

- この活動をとおして、何を感じましたか。
- 絵を描いていて気付いたことは、どのようなことですか。
- 気づきを、普段の生活のどのような場面でいかせますか。
- 日頃のコミュニケーションの中で、難しいと感じたことはありますか。それはどんな場面ですか。

